

国内グループ会社

オプテス

会社紹介

オプテスは、日本ゼオンの製造受託会社として、日本ゼオンが独自に開発した ZEONEX[®](ゼオネックス)、ZEONOR[®](ゼオノア)という透明なプラスチックを原材料にして、主に光学フィルム・小型成形品等の光学用途を主体とした製品の成形加工を行っている会社です。

富山県と栃木県に生産拠点を構えており、富山工場では液晶ディスプレイ用途のフィルム製造、佐野工場では医療用検査セルの提供を通じて省エネルギーを推進し、“人のまねをしない、人がまねのできない”独創的かつ革新的な技術で、地球に優しい独創的製品を広く世界に提供し、地球環境との共生に取り組んでいます。



植田恒久社長



オプテス富山工場(高岡)



オプテス富山工場(高岡)



オプテス富山工場(氷見)



オプテス敦賀工場の完成予想写真
(2013年10月完成予定)

環境安全活動

1. 環境安全への取り組み

安全をすべての中心に据え、無事故・無災害・品質向上を目標に取り組みを進めています。特に2012年度はこれまで取り組んでいたヒヤリハット活動^{※1}や危険予知訓練(4R-KYT^{※2})、防災避難訓練などに加え、製造機器に対するリスク評価を徹底的に実施し「危険度0機器」を構築するなど、徹底的に安全な機器づくりにも邁進してきました。また、従業員の安全教育にも一工夫し、与えられる教育から実践する教育へ考えを変え“安全体感装置”を製作。全員で危険を体感する中で、より安全な操業ができる体制を構築してきました。

※1 ヒヤリハット活動

ヒヤリハットとは、ヒヤリとしたり、ハッとしたりするなど、事故になりそうだった事柄のこと

※2 4R-KYT

4ラウンド危険予知活動。職場や作業の状況のなかにひそむ危険要因とそれが引き起こす現象を小集団で話し合い、考え合い、分かり合うことで行動する前に解決させる危険予知手法の1つで、手順が1R(ラウンド)から4Rに分けられていることから4R-KYと呼ばれている

2. 環境関連データ

(株)オプテス 佐野工場		2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
PRTR 法対象物質	対象物質数	1	1	1	1	1
	使用量(トン)	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
	排出量(トン)	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
産業廃棄物	減容前発生量(トン)	16	11	7.2	5.9	7.0
	埋立処分量(トン)	16	11	0.7	0.0	0.0
水資源(工業用水+地下水+上水道)使用量(千 m ³)		18	4.0	4.4	3.7	5.2
CO ₂ 排出量(トン)		1,580	1,711	1,015	1,105	919
エネルギー使用量(原油換算、kL)		888	981	611	664	625

(株)オプテス 富山工場		2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
PRTR 法対象物質	対象物質数	0	0	0	0	0
	使用量(トン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	排出量(トン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
産業廃棄物	減容前発生量(トン)	200	462	419	707	849
	埋立処分量(トン)	0.0	0.8	1.5	0.0	0.0
水資源(工業用水+地下水+上水道)使用量(千 m ³)		-	40	50	31	29
CO ₂ 排出量(トン)		20,798	19,604	13,159	8,499	9,622
エネルギー使用量(原油換算、kL)		8,608	10,058	10,501	9,390	10,313

地域との共生活動

当社では年間を通じて、地域との積極的な関わりを持っています。地域美化活動として、毎月、氷見上田子地区の方々との清掃活動を行っています。春・秋は工場周辺地域のゴミゼロ(530)クサゼロ(930)活動、夏は海岸清掃を行っています。また、富山県内の高等学校の工場見学を3校受け入れ、高校生の社会見学に協力しています。参加された高校生からは「世界に通じる製品を富山県で製造していることは、とても誇りに思います」とのコメントももらいました。さらに高等学校が行うインターンシップを4校受け入れ、社会体験としての工場就業体験を実施し大変好評です。次年度には、就業体験をした生徒がオプテスに就職するなど効果を上げています。



上田子地区でのゴミ拾い



氷見高校工場見学



インターンシップ